

たはらさこのうえいせき 田原迫ノ上遺跡

～弥生時代の大集落～

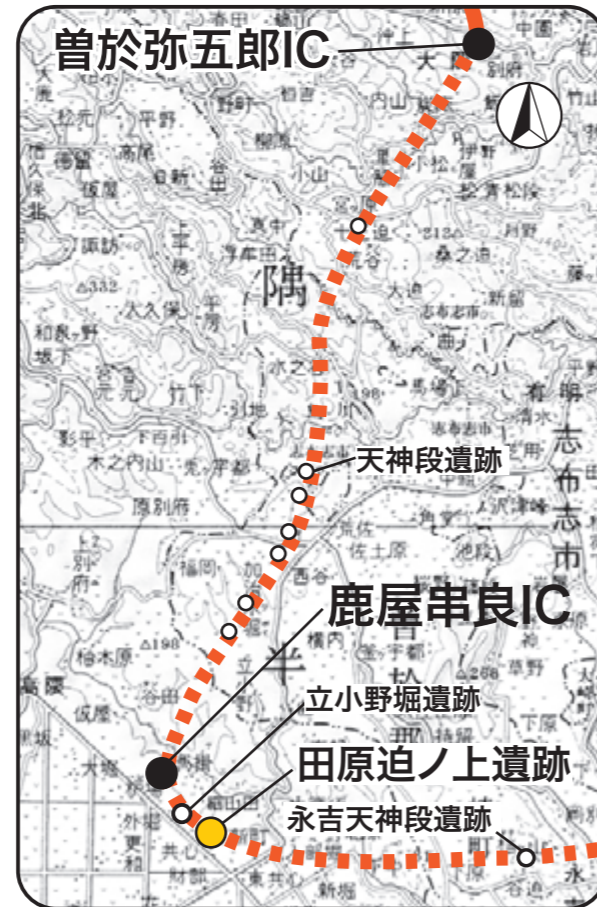
現地説明会資料

なぜ、発掘調査を行うの？

遺跡が、高速道路などを造る工事で壊されてしまう前に、記録を残すための調査を行っています。

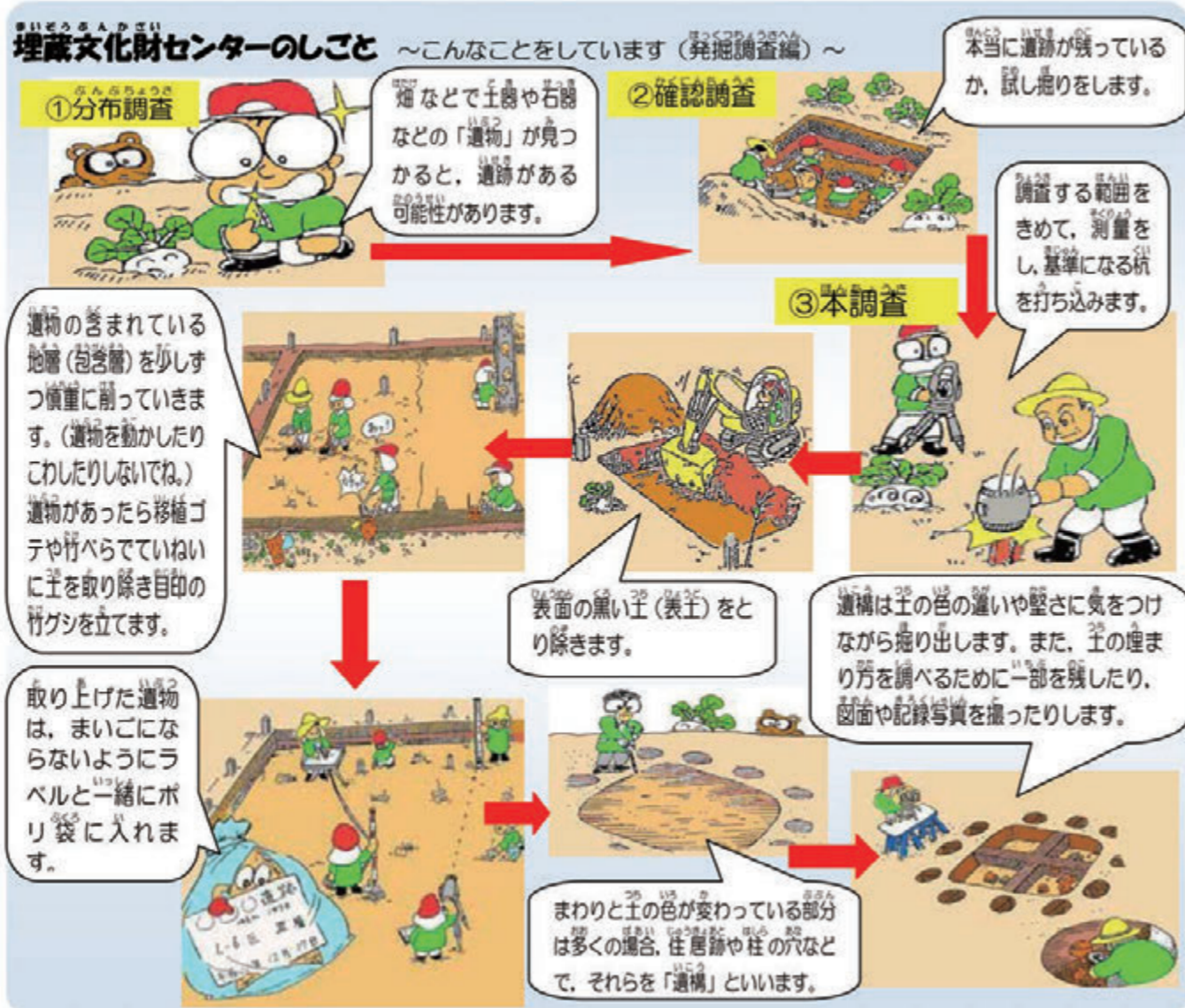
東九州自動車道建設に伴って、今年度は田原迫ノ上遺跡のほか天神段遺跡、立小野堀遺跡、永吉天神段遺跡でも調査を行っています。

※東九州自動車道関連遺跡地図



発掘調査の方法

発掘調査は、次の順序で行います。田原迫ノ上遺跡では現在③の本調査を行っています。



田原迫ノ上遺跡は、東九州自動車道建設に伴い県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行っている遺跡です。
本日の説明会では発掘成果をご覧いただきながら、発掘調査からどんなことがわかるのか？という皆様の疑問にお答えできるようにしたいと考えています。
また、地層の観察や田原迫ノ上遺跡出土品の展示などをおして、地域の歴史、昔の生活を身近に感じていただきたいと思います。



連穴土坑



円形周溝(二重)



竪穴住居跡



調査風景



鹿児島県立埋蔵文化財センター
平成24年11月10日(土)

田原迫ノ上遺跡って、どんな遺跡？

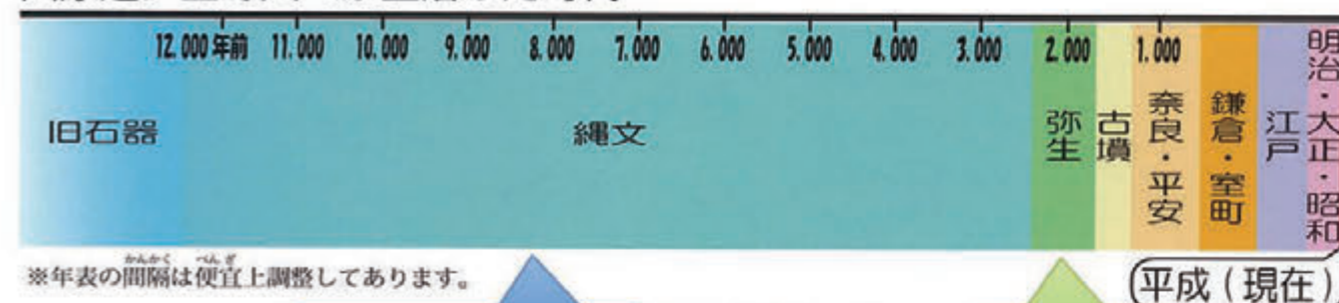
田原迫ノ上遺跡では、これまでの調査で、弥生時代中期（約 2,000 年前）と縄文時代早期（約 8,000～7,000 年前）のムラが見つっています。

特に、今年度の調査で発掘された弥生時代のムラでは、規格性の高い竪穴住居跡のほか、掘立柱建物跡や柱穴列、土坑、円形・方形周溝など多様な遺構が見つかりました。その範囲は130m以上にわたり、これは県内でも有数の規模であり、多くの人びとが暮らした大集落であったことがわかりました。

(今年度発見されたもの)

- 竪穴住居跡 23 軒，掘立柱建物跡 11 棟，土坑 14 基，柱穴列 2 列
円形・方形周溝 8 基

田原迫ノ上で人々が生活した時代

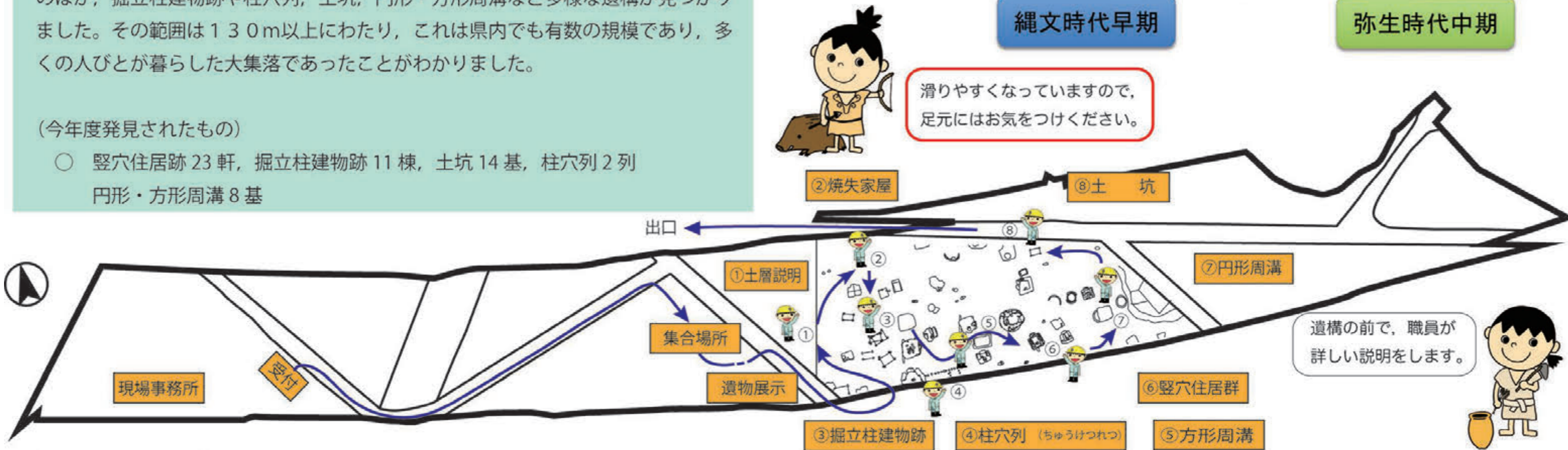


縄文時代早期

弥生時代中期

滑りやすくなっていますので、足元にはお気をつけください。

遺構の前で、職員が詳しい説明をします。



どんな遺構が見つかったの？



竪穴住居跡



掘立柱建物跡



土坑



集石遺構

竪穴住居跡 (たてあなじゅうきょあと)

主に縄文時代から平安時代に見られる住居の一形式です。地面を長方形や円形等に数 10 cm～1 m ほど掘り下げた竪穴に屋根をかぶせる住居です。弥生時代～古墳時代には、多くの住居で中央または奥寄りに炉 (ろ) がつくられています。

掘立柱建物跡 (ほったてばしらたてものあと)

地面に柱穴を掘りこんで建てた建物跡です。

集石遺構 (しゅうせきいこう)

旧石器時代～縄文時代に発見される調理施設です。焼けた礫 (れき) が 1～2 m の円形に集まったものです。石を焼きその熱で食物を蒸したのと考えられています。

どうして年代がわかるの？

火山灰が年代をはかるものさしになります。



弥生時代(竪穴住居跡)

池田降下軽石層 (約 5,700 年前)

アカホヤ火山灰層(約 6,400 年前)

縄文時代(集石遺構)

薩摩火山灰層 (約 11,500 年前)